

2016 年 12 月 15 日

株式会社ベネッセホールディングス
代表取締役社長 安達 保

オンライン学習「チャレンジ Challenge English 中学・高校 4 技能クラス」 2017 年 4 月開講！

日本人講師との「ライブ授業」と外国人講師による「マンツーマンレッスン」で
「リスニング＆スピーキング」の力を高め、
次期学習指導要領や社会のグローバル化の中で求められる実践的な英語力を身につける

株式会社ベネッセホールディングスの子会社、株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市、以下:ベネッセ)は、2017 年 4 月、中学生・高校生向け英語教材「Challenge English (チャレンジングリッシュ) 中学・高校 4 技能クラス」を開講します。

ベネッセは、既に 2015 年 4 月より、小学生向け「Challenge English」を提供しております。「Challenge English」は、パソコン、タブレット等マルチデバイス対応のデジタル教材となっており、英語に親しみ、英語の4技能を伸ばすことのできる講座です。今回、さらに中学生と高校生向けに「Challenge English」の提供を始める背景には、学校教育の変化があります。現在小学校では英語が必修化されており、早ければ 2018 年度に小学校 5,6 年で英語が教科化され、中学校では「英語で行うこと」が基本となり、従来の「読む」「書く」に加えて「聞く」「話す」力が求められるようになります。さらに現在高校入試においても「聞く」「書く」の出題が増加^{*1}しており、大学入試においては、4 技能を総合的に評価する民間検定試験を導入^{*2}する大学が増え続けています。自分で考え自分の言葉で意見を発信することができる、実践的な「使える英語力」を身につけることが、ますます求められていると言えます。

今回スタートする「Challenge English 中学・高校 4 技能クラス」では、日本人講師による「ライブ授業」(チャットによる個別フォロー付き)と外国人講師との会話レッスン「マンツーマントーク」の W 講師制度による学習サイクルで、リスニングとスピーキングの力を効果的に高めます。レッスンで話す内容については「ワークブック」に書いてまとめていくことで、自分が話す内容を組み立てる力が身につきます。また、レッスンの合間には、デジタル教材「基礎トレアプリ」でリスニングと発音の力を鍛えることができます。さらに、年に 2 回、ベネッセが開発し多数の大学入試にも採用されているスコア型英語検定試験 GTEC^{*3}と連動した「スピーキングテスト」で、英語を話す力がどのぐらい身についているか確認することができます。教材は【学年×英語レベル】で 4 レベルから構成されており、受講開始時に「レベルチェック」を受けることで、自分の学年や現在の英語力に合ったレベルからスタートすることができます。



「Challenge English 中学・高校 4 技能クラス」は、中学・高校の学習進度を配慮したカリキュラムですが、学校英語で中心となる「読む」「書く」に加え「聞く」「話す」を中心とした実践的な英語学習によって、高校入試や大学入試の変化にも対応した力が身につきます。
進研ゼミ会員向けにオプション教材として会員価格で販売する他、一般向けにも販売します。

※1 2016 年公立高校入試ではすべての都道府県でリスニングが出題されており、配点 2 割以上が大半となっています。また、「話す」力につながる「書く(英作文をまとめる)」の出題も増加しています。

※2 すでに多くの大学が、GTEC や英検・TOEFL®など英語の外部検定スコアで可否を決められるようになってきています。
国公立大:筑波大/千葉大/金沢大/九州大/長崎大/ 等。私立大:上智大/学習院大/東京理科大/立教大/早稲田大/立命館大等(2016 年 9 月時点)

※3 GTEC は「聞く」「読む」「書く」「話す」の 4 技能を測るスコア型英語検定です。
・中学・高校生向けスコア型英語検定で受検者数 No.1 (2015 年度受検者数 81 万人)
・GTEC スコアを 2017 年以降、入試で利用する大学:136 大学(2016 年 12 月 15 日時点)

【 Challenge English 中学・高校 4 技能クラス 概要 】

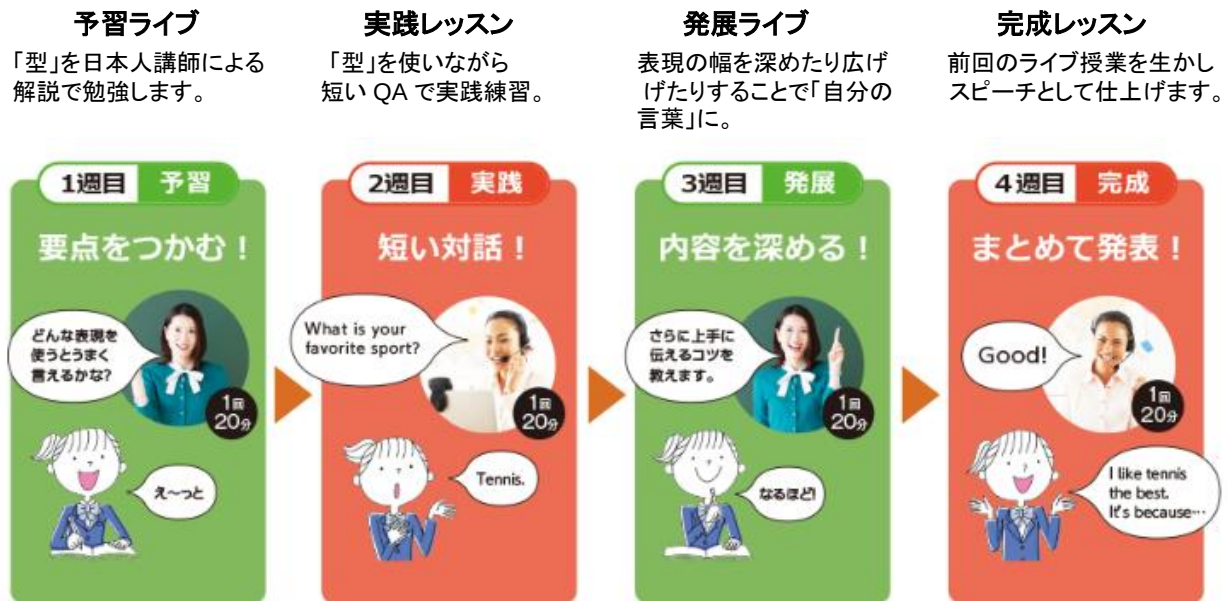
商品名	Challenge English(チャレンジイングリッシュ) 中学・高校 4 技能クラス
対象学年	中学校 1 年生～3 年生 ・高校生 1 年生～3 年生
開講時期	2017 年 4 月～
受講費	通常価格 4,089 円(税込) 進研ゼミ会員特別価格 3,999 円(税込) ※いずれも 12 か月分一括払いの場合の 1 か月あたりの価格
商品構成	・月 2 回(1 回約 20 分)の日本人講師による「ライブ授業」 ・月 2 回(1 回約 20 分)の外国人講師による「マンツーマントーク」 (年 2 回の「スピーキングテスト」を含む) ・リスニングと発音の力を鍛えるデジタルコンテンツ「基礎トレアプリ」 ・自分の話す内容を書いて組み立てる「ワークブック」 ※「マンツーマントーク」は別途有料で 1 回から追加購入可能
備考	●受講費以外の入会金・教材費はございません。 ●マルチデバイス対応 (Windows/Mac/iOS/Android/スマホ/チャレンジパッド 2) ※対応機種には制限があります。詳しくはホームページでご確認いただけます。

【 Challenge English 中学・高校 4 技能クラス 教材サービスの内容詳細 】

～学習の流れ～

初めにレベルチェックを受け、自分に合ったレベルからスタートできます。表現の基礎や文法の復習、外国人講師との会話のコツを日本人講師のライブ授業で学び、翌週に外国人講師とマンツーマンで実践練習を行います。

【 Challenge English 中学・高校 4 技能クラス 教材サービスの内容詳細 】(つづき)



■日本人講師による「ライブ授業」

講師のわかりやすい説明を聞きながら、「みんなでチャット」「こっそりチャット」で、気軽に意見交換したり、講師に質問したり。同じ英語レベルの仲間とみんなで楽しく授業を受ける感覚で、スピーチの準備ができます。

スピーチとして洗練させるためのテクニックや、自分のオリジナリティを出す一文の付け加え方など、中高生の英語レベルに配慮しながら、ここでしか学べない工夫を盛り込んだ授業となっています。



■外国人講師による「マンツーマントーク」

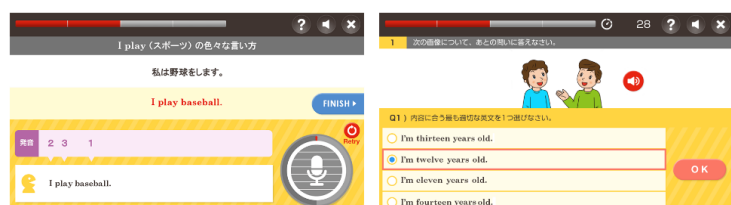
最初はひとことのやりとりからで OK。中高生の会話力を熟知して、専門のトレーニングを受けた講師が、あたたかく、楽しく生徒のレベルに合わせてレッスンを進めて、会話を引き出してくれます。

細かい発音や文法の誤りも、チャット機能なども使って丁寧に指導してくれます。中高生に身近な話題でのフリートークにも挑戦できます。



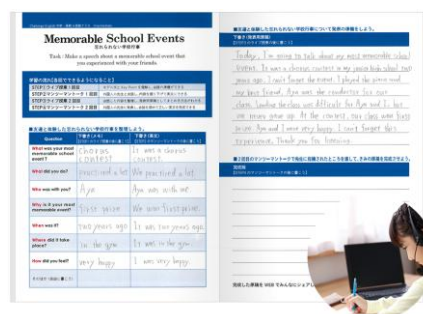
■英語の耳と発音を鍛える「基礎トレアプリ」

リスニングは、入試・定期テストや資格試験でも頻出の形式でできるので、即戦力が身につきます。発音は、音声認識・発音評価機能搭載。自分が使う単語や英文を事前に口に出して練習できます。スマホ対応ですきま時間にも学習できます。



■自分の伝えたいことを組み立てられる「ワークブック」

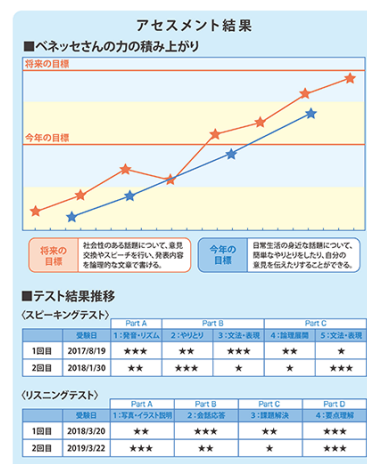
4週間の学習を通して仕上げていくワークです。ライブ授業を聞きながら、話すことのメモを入れて行けば、自然とスピーチが仕上がるように工夫されています。できあがったスピーチは会員 web に投稿することもできます。



■入試や資格試験にも通用する力を測る「スピーキングテスト」

音読や意見を述べるなど、各種スピーキング試験で想定される出題形式で、スピーキング力を測ります。テストはネット上で、先生と対面する形で行われ、その場で指導を受けることができるとともに、後日「結果レポート」を見ることができます。自分の力が試験や入試に対応できることを実感しながら学習を進めることができます。

※＜Challenge English＞のスピーキングテストでは、難関私立校、公立進学校等で採用されている、ベネッセが開発した中学・高校の学校向けオンラインスピーキング対策講座「Online Speaking Training」と、連携を行っています。ハイレベル校の生徒が受けるのと同じレッスンを自宅で受けることができます。



■学習が続く、楽しくなる「クラスリーダー」制

「クラスリーダー」スタッフたちが、授業の前後の声掛けや web 発信を担当。学校が忙しく活用が落ちてしまう時期にはイベントを行ったり、資格試験の前には情報発信をしてくれたり、「Challenge English 中学・高校 4 技能クラス」でのクラス生活を盛り上げ、サポートします。

■学習レベル一覧

初回レベルチェックで、＜学年×現在の英語力＞で最適なレベルからスタートすることができます。自分に合ったレベルで力を伸ばし、Advanced レベル修了時には、「聞く・話す」力において、難関大の入試に対応できる英語力を身につけます。また、「自分の伝えたいことを組み立てる」力を鍛えることで、近年高校・大学入試での取り扱いが大幅に増えてきている、意見文などを「書く」力も高めることができます。

※Advanced レベルは 2018 年開講予定です。
※各資格試験の該当スコア／級は 2016 年 9 月現在のものになります。内容は変わることがあります。
※各資格試験は、リスニング・スピーキングの相当レベルです。また、大学・学部により、基準となるスコアや検定試験の活用方法は異なります。

※CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とは、欧州評議会によって作成された各々の地域における語学レベルを図る枠組みのことであり、国際的な指標としても広く使われ、また全ての主要言語試験はこれを参照しているものです。

※「英検®」は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

レベル	レベルの目安	民間試験のレベル			
		英検	GTEC for STUDENTS	GTEC CBT	CEFR
2018年4月開講予定 Challenge English 中学・高校 4 技能クラス Advanced	社会性のある話題について、意見交換やスピーチを行い、発表内容を論理的な文章で書ける。	2級	GRADE5	740～899	A2
Challenge English 中学・高校 4 技能クラス Intermediate (推奨学年:高校生)	相手と目的を意識して、意見や説明を効果的に述べ、まとまりのある文章で書ける。	準2級	GRADE 3～4	620～739	
Challenge English 中学・高校 4 技能クラス Primary (推奨学年:中2～3)	日常生活の身近な話題について、簡単なやりとりをしたり、自分の意見を伝えたりすることができる。	3級	GRADE2	～619	A1～Pre A1
Challenge English 中学・高校 4 技能クラス Rookie (推奨学年:中1)	3～5文で自己紹介や身近なことについて伝えられる。	4～5級	GRADE1		

【 Challenge English 中学・高校 4 技能クラスについて】

Challenge English 中学・高校 4 技能クラスの詳細はこちら
http://sho.benesse.co.jp/challenge_english/chukou/chu/

【ご参考】 英語を指導する際、「生徒が自分の考えを英語で表現する機会を作る」「4 技能のバランスを考慮して指導する」ことなどで大きなギャップ

中学校・高校の英語の授業では音声指導や文法指導が多く、「話す」「書く」を含めた言語活動がまだ十分に行われていないという課題がベネッセ教育総合研究所「中高の英語指導に関する実態調査 2015」により、明らかになりました。中高生の英語によるコミュニケーション能力の向上のためには、従来の文法中心の指導からの脱却が求められます。英語教員の多くは、「英語で表現する機会を作る」ことや「4技能のバランスを考慮する」ことの重要性を認識しています。しかし、その実行が十分ではないことも明らかになりました。次期学習指導要領に向けて学校の指導も徐々に変化していくと予測されますが、家庭学習などで4技能の指導支援を行うことも重要だと考えられます。

